

■総合計画進行管理総括表

資料 1

平成 30 年度第 3 回逗子市総合計画審議会
2018 年（平成 30 年）11 月 12 日

「わたしたちはこんなまちにしてい」全般に対する評価と今後の対応

◇市の評価

<総括評価>

緊急財政対策による事業の縮小・廃止等により、全体的に評価が昨年度より下がっていることを重く受け止め、まずは、早急に財政の安定化を回復して目標達成に最善を尽くしたい。

評価が下がった要因としては、財政状況に加え、実施計画の 3 年目を終えて、自治基本条例検討事業や地域自治システム推進事業、商工業振興計画と小坪海浜地域活性化計画の策定が遅れていることが挙げられる。これらはいずれも逗子市にとって重要な課題であり、市民や関係機関との合意形成に努めながら、全力で事業を推進していく。

また、緊急財政対策によって活性化イベントへの補助金を削減したが、市民・事業者の熱意によって、花火大会をはじめ、ほとんどの事業が継続開催となっていることに感謝するとともに、市民と事業者と行政がそれぞれの力を発揮しながら、まちづくりに取り組む協働関係をさらに進化させたい。

行政としては、財政対策によって財政調整基金に依存しない予算への構造改革を行ったことを踏まえ、実施計画 8 年間に達成すべきリーディング事業の優先順位を明確にして、経営資源をより重点配分する必要があると考えている。

一方、人口は微減傾向が続いており、生産年齢人口の転入促進のために、子育て支援と教育のさらなる充実と、シティプロモーションの強化に取り組んでいく。特に、人口減少が顕著な東逗子地域と小坪地域の活性化は重要であり、東逗子においては総合的病院の誘致実現と JR 東逗子駅前用地活用計画を、小坪においてはオリンピック開催と小坪海浜地域活性化計画を起爆剤にして、将来展望を描いていきたい。

最後に、総合計画の進行管理においては、各審議会等よりの確な評価に基づいた今後の課題を指摘いただいており、これをいかに施策に反映するかが重要である。今後とも行政と審議会等の対話を大切にしたい。

政策効果を高めるために、進捗を加速するために、工夫・重点化すべき点

○予算

緊急財政対策によって、人件費の削減、近隣他市を上回る行政サービスの見直しや、各種補助金の削減など大幅なスリム化を断行した。10 月末に平成 30 年度の財政対策プログラムの検討結果を報告し、来年度予算編成に臨むが、基本的には平成 30 年度予算がベースとなり厳しい状況が続く。財政調整基金の残高目標である 10 億円は当初の計画より前倒しで確保できる見込みであるが、今後とも基金に頼らない予算編成に徹して、民間委託や広域連携などさらなる行財政改革を進め、公共施設の老朽化対策や子育て支援の財源確保、超高齢社会への対策に的確に応え、総合計画の達成にまい進する。

○人・組織

業務の効率化を図り、時間外勤務は 2 年前の年間 1 億 8 千万円から昨年度は 1 億 2 千万円となり、約 6 千万円削減した。さらに人員削減と時間外勤務の削減を進めるために、業務改善アプリケーションの導入による効率化と、部署を越えて職員の応援派遣を行う全庁的な制度を構築した。これにより、平成 30 年度は財政対策で人員は減ったにもかかわらず、時間外勤務は昨年よりも減っており、大きな成果が得られている。

また、非常勤特別職の市民協働コーディネーターに代わり、行政職員の中から市民協働コーディネーターを任命する制度を立ち上げ、9 月からスタートする。行政・市民・事業者・関係機関の連携がますます重要になっている中、行政のコーディネート機能を強化して横断的な課題への対応力を高めたい。

◇総括評価結果

柱	基幹計画評価			個別計画評価			施策体系評価			リーディング ・基幹計画事業		
	㉠	㉡	㉢	A	B	C	a	b	c	(a)	(b)	(c)
第1節	-	1	-	1	4	-	8	7 (5)	0 (2)	16	9 (8)	1 (2)
第2節	-	1	-	1	4	-	10	5	2	12	7	2
第3節	-	-	1	-	5	1	3 (2)	11 (12)	1	13 (12)	11 (12)	3
第4節	-	1	-	1 (0)	3 (4)	1	8 (4)	3 (7)	2	8 (4)	3 (7)	2
第5節	-	1	-	2	1	1	4	5	2	4	5	2
合計	-	4	1	5 (4)	17 (18)	3	33 (28)	31 (34)	7 (9)	53 (48)	35 (39)	10 (11)

※ () の数字は、審議会等から指摘を受けた評価に変更した場合

◇総合計画審議会の意見／【Check】の観点からの意見等

＜総括評価意見＞

- 近年、気候変動に伴う異常気象が常態化しており、猛暑や豪雨による被害が多発する中、本市においてもこうした被害とその対策を想定しておく必要がある。とりわけ、子どもや高齢者は災害時の迅速な対応が困難であったり、暑さに深刻なダメージを受けやすいことを改めて認識し、的確に対応していく必要がある。
- 財政対策プログラムを確実に進めるとともに、総合計画に位置付けられたリーディング事業については優先順位を明確にし、引き続き目標の達成に向け努力されたい。
- 財政対策により補助金が削減されたイベント等について継続されているのは、市民、事業者だけでなく職員の熱心な取り組みの結果でもある。一方、職員の過重負担や、財政状況の悪化による職員意識の萎縮も懸念される。行政サービスの向上に向け、柔軟な発想で新たな取り組みを進め、それにより職員一人ひとりの力量形成につながることを期待する。

＜各基幹・個別計画の評価状況についての意見＞

- 総合計画・基幹計画・個別計画を一体的に進行管理するために、共通した評価の仕組みを用いる必要性は理解できるが、計画の評価においては質の評価も重要であり、各計画において、具体的な内容も踏まえた評価ができるよう評価方法の工夫も必要ではないかと考える。また、新たな社会課題に対する評価方法についても、検討する必要がある。

◇総合計画審議会の意見／【Action】の観点からの意見等

＜今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項＞

- 複数の計画に関わる事業については、各計画の体系別に評価が行われており、基幹計画、総合計画において横断的に評価をしているが、施策の推進に当たってこそ、横断的な視点を持つことが重要である。これまで以上に施策の関連性を意識し、担当課が協力して事業を進められたい。
- 事業の推進に当たり、事業スケジュールの管理は重要である。スケジュールを厳格に管理し、必達目標であることを意識して、目標達成に向けて取り組みを進められたい。
- 進行管理の目的は、事業実施の指針等として次に生かすことである。総合計画に位置づけられた施策等の実効性を高めるためにも、今回の評価や審議会等からの意見を確実に次の行動につなげていただきたい。